(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3556753号
(P3556753)
(45)発行日　平成16年8月25日(2004.8.25)　(24)登録日　平成16年5月21日(2004.5.21)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B42F 13/30　B42F 13/30　A
B42F 13/12　B42F 13/12　Z

請求項の数 2　(全 5 頁)

(21)出願番号　特願平7-324054
(22)出願日　平成7年11月17日(1995.11.17)
(65)公開番号　特開平9-142077
(43)公開日　平成9年6月3日(1997.6.3)
審査請求日　平成14年10月9日(2002.10.9)

(73)特許権者　000135209
株式会社ニフコ
神奈川県横浜市戸塚区舞岡町１８４番地１
(74)代理人　100089266
弁理士　大島　陽一
(72)発明者　森　一憲
神奈川県横浜市戸塚区舞岡町１８４番地１
株式会社ニフコ内

審査官　赤木　啓二

最終頁に続く

(54)【発明の名称】書類綴じ具の取付構造

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
書類を綴じる手段を有する金具をファイル本体に取り付けるための書類綴じ具の取付構造であって、
前記ファイル本体にファイル側長孔を開設すると共に、前記ファイル本体に重ね合わせて取り付けられる金具にその取り付け状態で前記ファイル側長孔と整合する金具側長孔を開設し、
前記ファイル本体と前記金具とを互いに結合するためのクリップを、前記各長孔の幅方向長さよりも拡径された頭部と、前記各長孔に挿通可能な略同一形状に形成された脚部と、前記頭部と前記脚部との両者間に同軸的に設けられかつ前記各長孔の幅方向長さと略同一長さの径にて形成された首部とからなるように形成したことを特徴とする書類綴じ具。
【請求項２】
前記金具の前記金具側長孔の長手方向に沿う縁の外側の近傍位置に係合孔を設けると共に、前記脚部を前記各長孔に挿通した後に前記クリップを回転させることにより前記係合孔に係合させるための突部を前記頭部に設けたことを特徴とする請求項１に記載の書類綴じ具の取付構造。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、書類綴じ具の取付構造に関するものである。

【０００２】
【従来の技術】
紙片の一方の端縁部に規定ピッチ間隔で複数の孔を穿設し、この孔に金属ガイドパイプを挿通することによって多数の紙片をまとめて綴じることができるようにしたファイルがある。このようなファイルの一形式として、多数の紙片を束ねるべく、ファイル本体としての背表紙の内側に金具の平板状のベースを取り付け、そのベースの左右の両端縁に各ヒンジ部を介して傾動自在な一対の押さえ板からなる紙片挟持部を設け、上記ガイドパイプを一方の押さえ板により片持ち支持し、ガイドパイプに挿通自在なロッドを設け、ファイルを綴じた状態では他方の押さえ板によりロッドを選択的に保持可能にして、新しい書類を一方の側から綴じ込む一方、古い書類を他方の側から抜き取ることができるようにした両開きファイルが知られている。

【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
上記したようなファイルにおける金具を取り付けるための構造にあっては、例えば金具に舌片状の弾発係合爪を設けると共にＴ形スタッドを突設し、ファイル側には、弾発係合爪の先端部を弾発的に没入させて係合状態にするための角穴と、Ｔ形スタッドの拡頭部を挿通可能な大径孔部と首部を受容可能な小径孔部とからなるダルマ形状孔とを設けたものがある。その金具にあっては、Ｔ形スタッドの拡頭部を大径孔部に挿通した後に小径孔部側にスライドさせて、拡頭部を小径孔部に係合させて抜け止めすると共に、上記弾発係合爪を角穴に弾発係合させ、拡頭部をかしめて固定するなど、取り付け作業が煩雑化し、作業コストが高騰化するという問題がある。

【０００４】
また、ファイルを捨てる際には金具をファイル本体から取り外して分別ごみとして処理する必要性がある。しかしながら、上記従来のファイルの金具構造にあっては、金具をファイル本体から取り外す際には、かしめを戻し、弾発係合爪を工具により引き起こして角穴との係合を解除して行うことになり、取り外し作業性が悪いという問題がある。

【０００５】
【課題を解決するための手段】
このような課題を解決して、取り付けや取り外しを容易に行い得る書類綴じ具の取付構造を実現するために、本発明に於いては、書類を綴じる手段を有する金具をファイル本体に取り付けるための書類綴じ具の取付構造であって、前記ファイル本体にファイル側長孔を開設すると共に、前記ファイル本体に重ね合わせて取り付けられる金具にその取り付け状態で前記ファイル側長孔と整合する金具側長孔を開設し、前記ファイル本体と前記金具とを互いに結合するためのクリップを、前記各長孔の幅方向長さよりも拡径された頭部と、前記各長孔に挿通可能な略同一形状に形成された脚部と、前記頭部と前記脚部との両者間に同軸的に設けられかつ前記各長孔の幅方向長さと略同一長さの径にて形成された首部とからなるように形成したものとした。特に、前記金具の前記金具側長孔の長手方向に沿う縁の外側の近傍位置に係合孔を設けると共に、前記脚部を前記各長孔に挿通した後に前記クリップを回転させることにより前記係合孔に係合させるための突部を前記頭部に設けると良い。

【０００６】
【発明の実施の形態】
以下に添付の図面に示された具体例に基づいて本発明の実施の形態について詳細に説明する。

【０００７】
図１は、本発明が適用された両開きファイルの全体を示す斜視図であり、図に示されるように、ファイルの背表紙１の内面に本発明の綴じ具の金具２が取り付けられるようになっている。

【０００８】
金具２は、金属製薄板を折曲加工して形成されており、背表紙１に取り付けられるＬ字形

のベース２ａと、ベース２ａの起立状態に曲折された固定壁部と対峙し得るようにヒンジ結合された可動壁部２ｂとからなる。書類を綴じるには、両壁部を対峙させ、図示されないロッドを書類のパンチ孔に挿通させた状態で両壁部間に橋渡し状態に取り付けて行う。

【０００９】

背表紙１に取り付けるベース２ａの平板部には、その中央部の４箇所にて裏面側（取り付け状態における背表紙側）に切り起こして形成された４つの爪３が設けられていると共に、それら爪３を挟んで各２つずつ配置された計４つの金具側長孔４ａ・４ｂが設けられている。

【００１０】

一方の対の金具側長孔４ａが金具２の長手方向に沿う向きに延在し、他方の対の金具側長孔４ｂが金具２の長手方向に直交する向きに延在するように形成されている。また、金具２には、各金具側長孔４ａ・４ｂの長手方向に沿う両縁の各外側の近傍位置にそれぞれ一対の係合孔５が設けられている。

【００１１】

そして、ファイルの背表紙１には、上記４つの爪３にそれぞれ対応する位置に各横長の４つの係合孔６が開設されていると共に、上記４つの金具側長孔４ａ・４ｂにそれぞれ対応する位置であってそれぞれ同一形状かつ同方向に延在する各一対のファイル側長孔７ａ・７ｂが開設されている。

【００１２】

金具２を背表紙１に固定するためのクリップ８は、図１及び図２に良く示されるように、各長孔４ａ・４ｂ・７ａ・７ｂの幅方向長さよりも拡径された円板状頭部８ａと、薄板形状をなしかつ各長孔に挿通可能なように略同一形状に形成された脚部８ｂと、上記頭部８ａと上記脚部８ｂとの両者間に同軸的に設けられかつ各長孔の幅方向長さと略同一長さの径にて形成された首部８ｃとからなるように形成されている。

【００１３】

さらに、クリップ８の頭部８ａの裏側端面には、図２に示されるように首部８ｂを挟んで軸心に対して対称位置に一対の突部９が設けられている。これら突部９の位置関係は、上記各一対の係合孔５に対応するように配置されている。また、首部８ｃの軸線方向長さは、図３に示されるように背表紙１及び金具２を重ね合わせた厚さと略等しくされている。

【００１４】

このようにして構成された金具２をファイルの背表紙１に取り付けるには、各爪３を各係合孔６に挿入して金具２を背表紙１に対して位置決めする。その位置決め状態にて各金具側長孔４ａ・４ｂと各ファイル側長孔７ａ・７ｂとが互いに整合し、互いに整合した長孔にクリップ８の脚部８ｂを図１の矢印Ａに示されるように挿通する。

【００１５】

そして、クリップ８の頭部８ａに設けられた縦溝に工具（ねじ回しなど）を差し込んで図１の矢印Ｂに示されるように軸線回りに略９０度回す。すると、図３に示されるように各突部９が各係合孔５に没入してクリップ８が回り止めされ、かつ脚部８ｂの長手方向が長孔４ａ・７ａ（４ｂ・７ｂ）の長手方向に対して略直交するため、クリップ８が固定される。その状態ではクリップ８の頭部８ａと脚部８ｂとの間に背表紙１と金具２とが積層状態に挟持された状態になり、ファイルの背表紙１に金具２が取り付けられる。

【００１６】

本発明の綴じ具によれば、ファイルを廃棄処分する際には、上記とは逆にクリップ８を回して突部９を係合孔５から強制的に離脱させ、脚部８ｂを長孔と整合させることにより、容易に脚部８ｂを長孔から引き抜くことができる。そして、クリップ８を取り除くことにより、金具２を背表紙１から容易に分離することができ、これらの作業を特殊工具を用いることなく行い得る。

【００１７】

【発明の効果】

このように本発明によれば、ファイルに対して金具を取り付ける際にクリップを回すだけ

の簡単な作業で取り付け作業を行うことができると共に、廃棄処分する際にも、クリップを回すだけで金具をファイルから分離できるため、従来例で示したようにかしめを戻すような強い力を発生させる必要もなく、容易にファイルと金具とを分離できる。

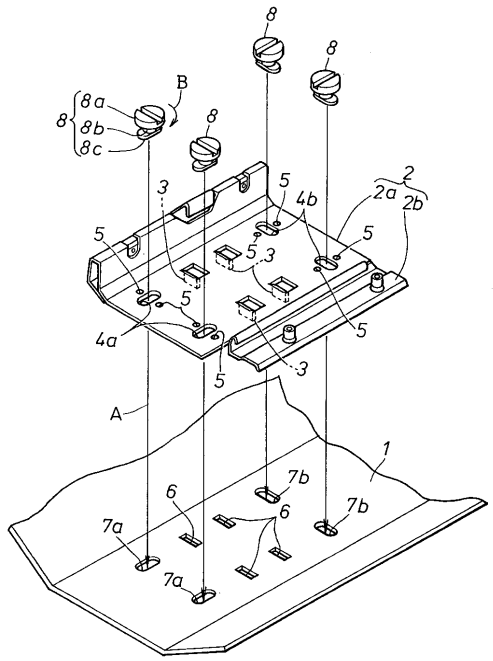
【図面の簡単な説明】

【図１】本発明が適用された両開きファイルの全体を示す斜視図。

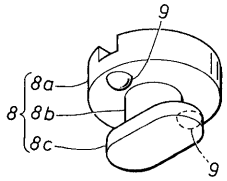
【図２】クリップを裏面側から見た拡大斜視図。

【図３】綴じ具の取り付け状態を示す拡大側断面図。

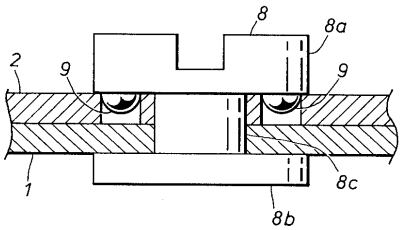
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０８－２２４９８５（ＪＰ，Ａ）
特開平０２－１５３８００（ＪＰ，Ａ）
実開昭５６－０５３５７１（ＪＰ，Ｕ）
特開平０９－１４２０７６（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－０７１０８２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
B42F 13/30
B42F 13/12